# 式　　辞

春の息吹を感じる今日の良き日、多くのご来賓の皆様、保護者の皆様をお迎えして、兵庫県立高砂南高等学校第 37 回入学式を盛大かつ厳粛に挙行できますことは、本校にとりまして、この上ない慶びとするところであり、ご臨席を賜りました皆様に、職員を代表して、心からお礼申し上げます。

先ほど入学を許可された 280 名の生徒の皆さん、入学おめでとうございます。新しい制服を身にまとったお子様の凛々しい姿を見て、保護者の皆様の感慨も、ひとしおのものと拝察申し上げます。

本校は、昭和 55 年に開校し、今年で 37 年目を迎える学校であり、これまで、多数の素晴らしい人材を輩出して参りました。「自主自立　質実剛健　友愛協調」を校訓に掲げ、生徒一人ひとりが勉強、部活動に、積極的に取り組み充実した学校生活を送っています。

さて、いよいよ本日からは、それぞれの夢の実現に向けた生活が始まります。その中で、「挑戦し続けることの大切さ」を心に刻んでください。

最近のテレビで取り上げられたので、番組を見た人がいるかもしれません。宝塚歌劇団に入るために努力する人たちの話です。受験できるのは中学３年生から高校３年までの４年間のみ。27 倍という厳しい競争に挑戦する人たちが取り上げられていました。

「苦手なことを克服しようと親子で毎日夜遅くまで特訓する人」「理想体重にするために、夕食はクラッカー一枚で過ごす人」「大学受験を望む父親の反対があったけれど、母親の応援を得て夢に向かって突き進む人」など、歌や踊りの練習はもちろんですが、宝塚入団のために、生活の全てをかけて努力する姿に、見ていて熱いものを感じました。

そして、運命の合格発表の日を迎えました。　高校三年生にとっては最後のチャンスです。合格した人は、憧れの舞台に立つための厳しい生活が待っていますが、うれし涙でいっぱいでした。

一方、合格できなかった人は、どうでしょうか。泣き崩れる受験者に、宝塚受験で一緒に歩んできた予備校の先生の言葉が印象的でした。第一声は、「見返そう。」もう既に前を向いていました。誰よりも努力していることを知っている先生です。さらに、「これまでの努力は、決して無駄にならない。ダメだったけれど、最後の最後まで自分の力を出し切れたことは、一生の誇りにして欲しい。」と、合格できなかった人への温かい言葉がとても印象的でした。

アイルランドの文学者で、ノーベル文学賞を受賞したバーナード・ショーの言葉です。「私は若かりし頃、10 のことを試しても９つが上手くいかないことが分かった。そこで 10 倍努力した。」

また、アメリカ合衆国の哲学者であるエマーソンは、

「偉大な栄光とは、失敗しないことではない。失敗するたびに立ち上がることにある。」と言っています。

これからの人生、全てが上手くいくことなんてあり得ません。挑戦して失敗したとしても、その失敗が次につながる。努力し続けることが大切なのです。皆さんには、挑戦した時間やそれにかけた強い気持ちが重要であることをしっかりと心にとめて、高校生活を送って欲しいと思います。皆さんには、これからの三年間、この高砂南高校で、少なくても１つ、これだという何かに挑戦してください。期待しています。

もう１つ、お話ししたいことがあります。それはみんな、当たり前のことなのですが、次の３つです。

１つ目は、「自分を愛し、友だちや家族を愛する。」

２つ目は、「人に迷惑をかけない。」

３つ目は、「人には優しく、人のためになる行動をする。」

皆さん、できていますか。私は、学校でも家庭でも、この３つを心がけて生活して欲しいと思っています。今日は、要点だけをあげましたが、全校生徒の皆さんに、機会があるたびに、ずっと話し続けたいと思っています。このことができれば、きっと学校が、皆さんにとって、安心して生活ができる居場所になると思います。みんなが元気で、温かさのあふれる高砂南高等学校にしようではありませんか。

最後になりましたが、保護者の皆様に一言ご挨拶申し上げます。私たち教職員は、地域に愛され、地域の期待に応える学校づくりを行うという情熱を持ち続け、お子様が、自らの生きる道を、自らが切り開いていけるように、全力でサポートして参ります。そのお子様の健全な成長には、家庭と学校とが緊密に連携を図りながら、一体となって取り組んでいくことが重要であります。どうか、本校の教育方針をご理解いただき、ご支援とご協力を賜りますようにお願いいたします。

活力ある本校で、明るく充実した高校生活を送られますことを心から期待して、式辞といたします。

平成 28 年４月８日

兵庫県立高砂南高等学校長　　三谷　暁男